



## 「いのちは永遠に続く…」

～星野富弘さんの信仰を見る～

「いのちが一番大切だと 思っていたころ

生きるのが 苦しかった

いのちより大切なものが あると知った日

生きているのが 嬉しかった」

このことばは、星野富弘さんが残された数多くの作品の中でも選りすぐりのものであると思います。

この言葉に感動されたお一人であった渡辺和子先生は、星野さんにお会いした時に、この「『いのちより大切なもの』って何ですか？」と質問したかったのですが、何かタイミングを失ってお聞きできなかったと述懐されておられました。先生ご自身が想像されて、それは、星野さんが真に生きる意味を見出した結果与えられたものであったのだろうということでした。

そのことはお二人ともはっきりとはお書きになっていませんが、それは、お二人とも「神様に会ったこと」ということでしょう。

星野さんは頸椎損傷という大きな事故を経験されて、人には決して言えないような苦しみを通過されました。しかし、その結果、神に会ったと言えます。

「神を知らない者が、人間の力ではどうにもならない窮地に陥った時、誰の名を呼んで助けを求めたらよいのでしょうか。」富弘

私たちは神に会った時に、救いを得るということです。それが、本当の命であるということ。

私自身も、神に会ったことを通して、本当の自由と、本当の人生を与えられました。今も悩みつつ、人生を過ごしていますが、神による永遠の命による救いがあることを心から感謝しています。